

スクエアマルチ LCD メーター 取扱説明書

製品番号 05-05-0037

適応車種 汎用 DC12V 車

この度は、弊社製品をお買い上げ頂きまして有り難うございます。
使用の際には下記事項を遵守頂きますようお願い致します。取り付け前には、必ずキット内容をお確かめ下さい。
万一お気付きの点がございましたら、お買い上げ頂いた販売店にご相談下さい。

◎イラスト、写真などの記載内容が本パーツと異なる場合があります。予めご了承下さい。

☆ご使用前に必ずお読み下さい☆

- ◎取扱説明書に書かれている指示を無視した使用により事故や損害が発生した場合、弊社は賠償の責を一切負いかねます。
- ◎当製品を取り付け使用し、当製品以外の部品に不具合が発生しても当製品以外の部品の保証は、どのような事柄でも一切負いかねます。
- ◎当製品を加工等された場合は、保証の対象にはなりません。
- ◎他社製品との組み合わせのお問い合わせはご遠慮下さい。
- ◎当製品は、上記適応車種の車両専用用品です。他の車両には取り付け出来ませんのでご注意ください。
- ◎当製品をお手入れする際には、ガソリンやシンナー等を使用しないで下さい。ラバーや樹脂部品の劣化の恐れがあります。
- ◎不明な点がございましたらお買い求めの販売店にお問い合わせ下さい。
- ◎社外品の H. I. D. キット、他社製 LED ヘッドライトやフォグランプ類は、絶対に同時装着しないで下さい。
パラスト / インバーター（電圧変換装置）からデジタル回路に悪影響を与える高電圧ノイズが出る物があり、製品故障や動作不良の原因となります。
- ◎前輪タイヤ外径補正機能により、表示速度を増減補正する事が出来ますが、不適切な設定を行なえば速度超過により取り締まりを受ける原因ともなります。公道でお使いになる場合は、ご自身の責任に於いてご使用下さい。
- ◎製品プログラムは予告無く変更・改良される場合があります。
同一の商品番号であっても製造時期により、動作や画面が多少異なる可能性があります。予めご了承下さい。
- ◎近年の車両は金属速度センサーから直接速度の出力し表示すると ABS エラーコードを検出してしまいます。

～特徴～

- コンパクトなメーターにスピードメーター、タコメーター、ガソリン計、オドメーター、トリップメーター、エンジンオイルトリップメーター、エンジンアワメーター、時計等の非常に多くの機能を搭載しています。コンパクトなので汎用性も高く、車種を選びません。

注意 この表示を無視した取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容及び物的損害が想定される内容を示しています。

- 一般公道では、法定速度を守り遵法運転を心掛けて下さい。
(法定速度を超える速度で走行した場合、運転者は道路交通法、速度超過違反で罰せられます。)
- 作業等を行う際は、必ず冷間時（エンジン及びマフラーが冷えている時）に行ってください。（火傷の原因となります。）
- 作業を行う際は、その作業に適した工具を用意して行って下さい。（部品の破損、ケガの原因となります。）
- 規定トルクは、必ずトルクレンチを使用し、確実に作業を行ってください。（ボルト及びナットの破損、脱落の原因となります。）
- 製品及びフレームには、エッジや突起がある場合があります。作業時は、手を保護して作業を行ってください。（ケガの原因となります。）
- 走行前は、必ず各部を点検し、ネジ部等の緩みがないかを確認し緩みが有れば規定トルクで確実に増し締めを行ってください。
(部品の脱落の原因となります。)

警告 この表示を無視した取り扱いをすると人が死亡、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

- 走行中、異常が発生した場合は、直ちに車両を安全な場所に停止させ、走行を中止して下さい。（事故につながる恐れがあります。）
- 作業を行う際は、水平な場所で車両を安定させ安全に作業を行ってください。（作業中に車両が倒れてケガをする恐れがあります。）
- 点検、整備は、取扱説明書又は、サービスマニュアル等の点検方法、要領を守り、正しく行って下さい。
(不適当な点検整備は、事故につながる恐れがあります。)
- 点検、整備等を行った際、損傷部品が見つければ、その部品を再使用する事は避け損傷部品の交換を行ってください。（事故につながる恐れがあります。）
- 製品梱包のビニール袋は、幼児の手の届かない所に保管するか、廃棄処分して下さい。（幼児がかぶったりすると、窒息の恐れがあります。）

- ◎性能アップ、デザイン変更、コストアップ等で製品及び価格は予告無く変更されます。予めご了承下さい。
- ◎クレームについては、材料及び加工に欠陥があると認められた製品に対してのみ、お買い上げ後 1ヶ月以内を限度として、修理又は交換させて頂きます。
但し、正しい取り付けや、使用方法など守られていない場合は、この限りではありません。修理又は交換等にかかる一切の費用は対象となりません。
なお、レース等でご使用の場合はいかなる場合もクレームは一切お受け致しません。予めご了承下さい。
- ◎この取扱説明書は、当製品を破棄されるまで保管下さいます様お願い致します。

ご使用上の注意

- [ヘッドライト OFF での走行禁止 / 保安部品を外したレース用車両]
ヘッドライト常時点灯車を安易な改造（断線させるだけ）によりライト OFF 状態にして走行すると消費されない電力が車体全体の電圧を上げてしまいます。そのまま走行を続けると、過充電によるバッテリーの劣化や過度の負担により純正レギュレーターが故障してしまう可能性があります。
ノーマルよりも高いエンジン回転数で走行するエンジン改造車では、悪影響がより強くなります。
ヘッドライトが球切れしてしまった場合は、直ちに走行を止めるか、どうしても走行する必要がある場合はハイビームに切り替えて（光軸も調整して）下さい。この時、なるべく低回転で走行して下さい。
レース用車両ですべての保安部品を外すには、専門的な知識と代替部品や追加部品が必要となります。

株式会社 スペシャルパーツ 武川

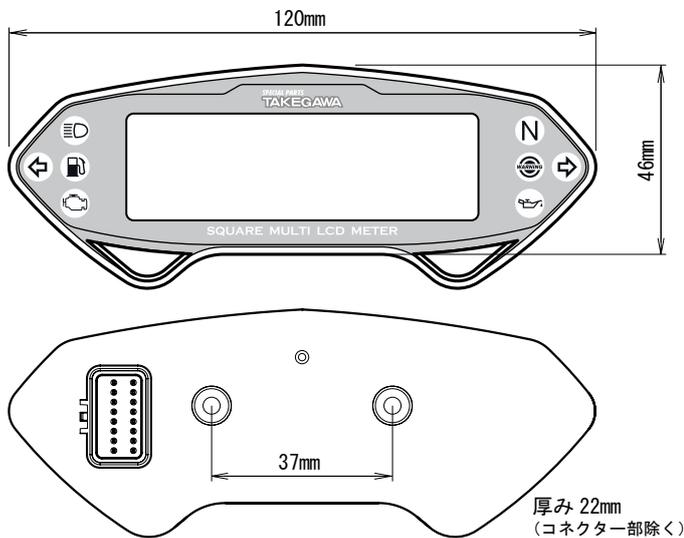
〒584-0069 大阪府富田林市錦織東 3-5-16
TEL:0721-25-1357 FAX:0721-24-5059 URL <http://www.takegawa.co.jp>

ご使用上の注意

- H. I. D. キットには品質によりバラスト/インバーター（電圧変換装置）からデジタル回路に悪影響を与える高電圧ノイズが出る製品があり、程度によってはメーター故障の原因となりますので取り付けしないで下さい。
- 弊社製 LED ヘッドライトキットについては、同時装着可能です。
- 社外品の点火装置及び、イグニッションコイルやプラグコード、レーシングプラグ（抵抗無しタイプ）は悪影響ノイズの増大により故障の原因となる可能性がありますので取り付けしないで下さい。また、点火系部品の劣化も点火ノイズ増大に関係します。
- 社外品の発電装置は充電力不足によるバッテリー電圧の低下、制御電圧の不具合により故障の原因となる可能性があります。取り付けしないで下さい。
- 炎天下での放置にご注意下さい。
長期、野外にバイクを置く場合はカバー等をかけて下さい。
炎天下の中など、過酷な条件下で長期放置しますと、樹脂やゴム製部品の劣化や変形の恐れがあります。
- 当製品は完全防水ではありません。
防滴構造ですので雨などの通常の水濡れ程度では内部に水は入りませんが、完全防水ではありませんので水の中に浸す等すると水が浸入してしまいます。万が一本体に水が入ってしまった場合は直ちに使用を止めて下さい。
また、湿度が高い時、急激な温度変化があった場合などに本体が湿気を吸い込みパネル内面に曇りが発生可能性があります。
- 激しい衝撃を与えないで下さい。
オフロード走行やジャンプ、ウィリーなど、メーターに強い衝撃を与える行為は行わないで下さい。
衝撃によっては内部部品の欠落、ボディの損傷の恐れがあります。
- 速度補正機能を用いる事で、表示速度を増減補正する事が出来ますが、不適切な設定を行えば速度超過により取り締まりを受ける原因ともなります。公道でお使いになる場合は、ご自身の責任に於いてご使用下さい。
- 本メーターのガソリン計を使用する場合、フューエルセンサーが空量状態でメーターの表示が空量になる事をご確認下さい。
設定間違い等により、実際はガス欠状態にもかかわらず、メーターが残量有りと表示してしまうと、ガス欠により車両停止の恐れがあります。

製品内容

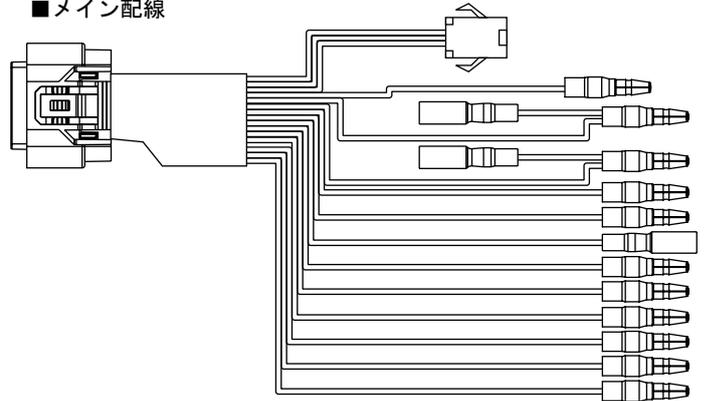
■メーター本体



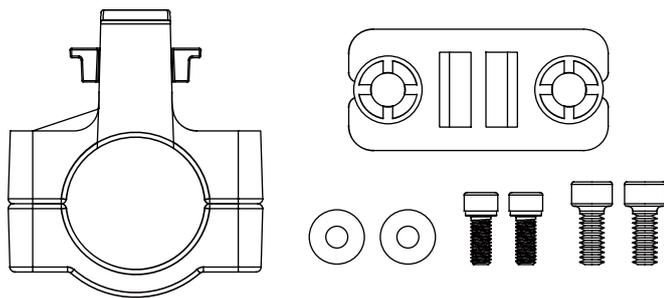
■メーター緒元

メーター本体消費電力：最大値※約 2W (13V150mA)
※バックライト最高輝度&インジケーター全点灯時

■メイン配線

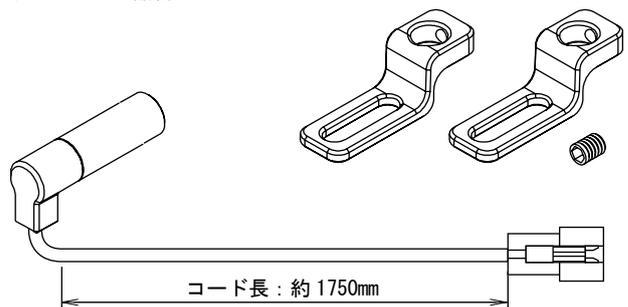


■ハンドルクランプステー（Φ 22 用）

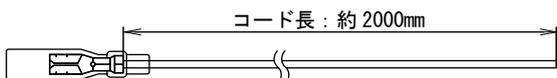


■金属反応式速度センサー（約 1750mm）

リペアパーツ品番 05-06-0035

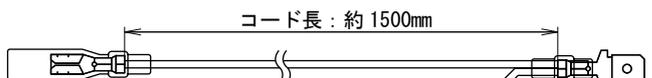


■RPM コード A（茶色コード約 2000mm）



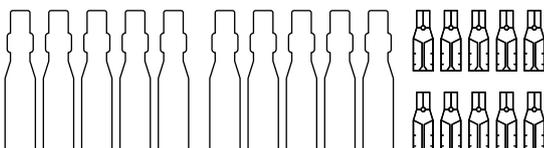
リペアパーツ品番 00-05-0350 (1.4m)

■RPM コード B（茶色コード約 1500mm）

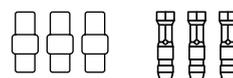


リペアパーツ品番 09-05-0142

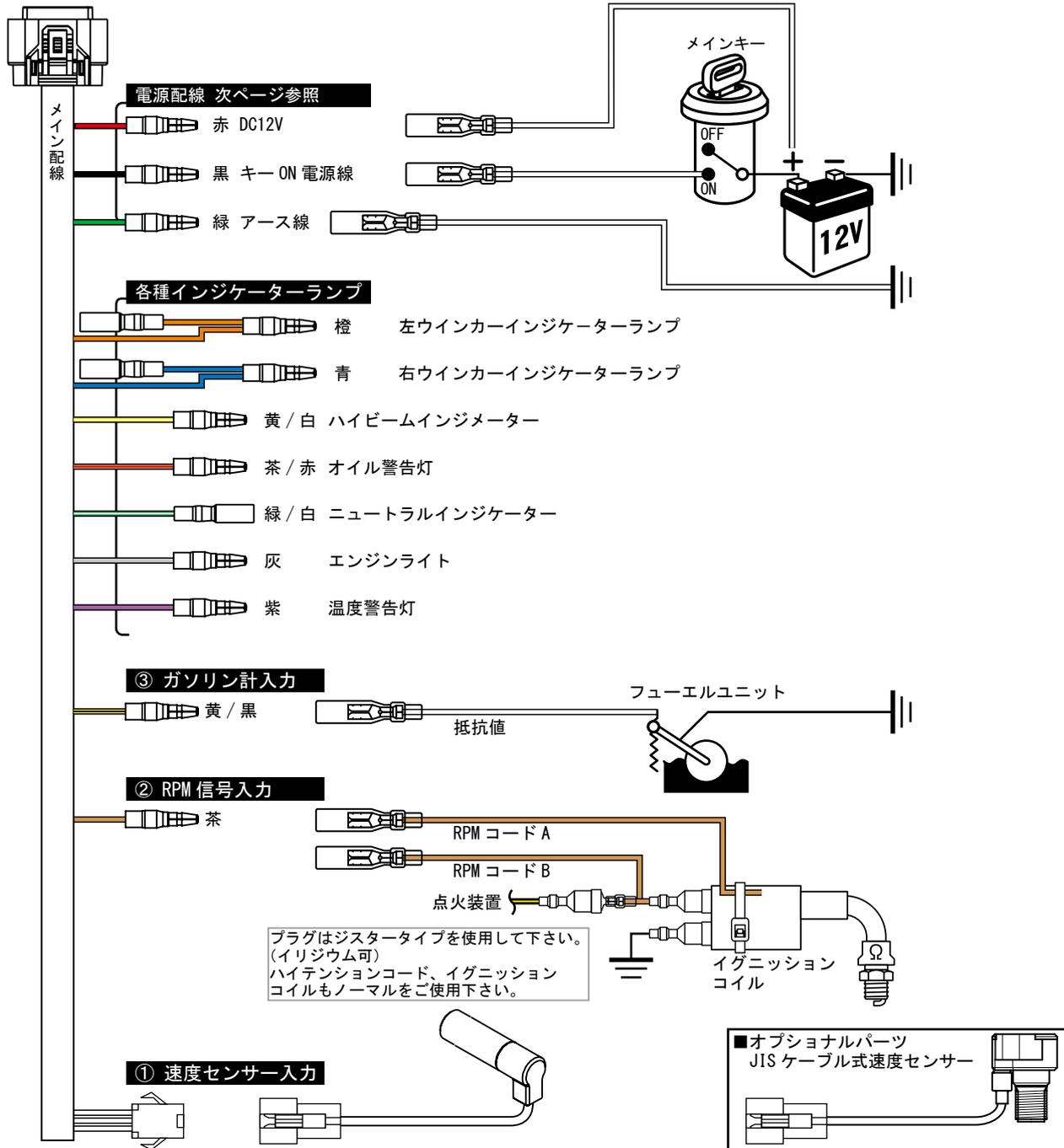
■メスギボシセット（10 セット）



■オスギボシセット（3 セット）



下図はミニバイク等で多い基本的な配線の参考図です。各配線の詳細ページでより詳しい内容を確認出来ます。バイクにより接続部品や配線色が異なりますので、メーター側各配線の意味を理解した上で、車体メーカー発行の配線図とよく照らし合わせ、正しく配線を接続して下さい。



【メーター本体】

当製品はバッテリーのDC12V(直流)を電源とする事が基本ですが、とかく不安定になりがちなミニバイクの電源に対応する為、過電圧に対して高い耐久性を持つ回路設計としております。
 又、アイドリング時などの作動安定性を高める為に、最低作動電圧を低めに設定しています。
 メーター本体のメイン電圧範囲はDC8V ~ 16Vですが、最低作動電圧付近では液晶文字濃度やバックライトが薄くなります。
 内蔵電池を必要としないフラッシュメモリー式ですので長時間、電源OFFでも各種記録は維持します。
 配線色及びギボシはホンダ車向け小型サイズ(φ3.5)になっております。車体によって配線を加工する必要があります。

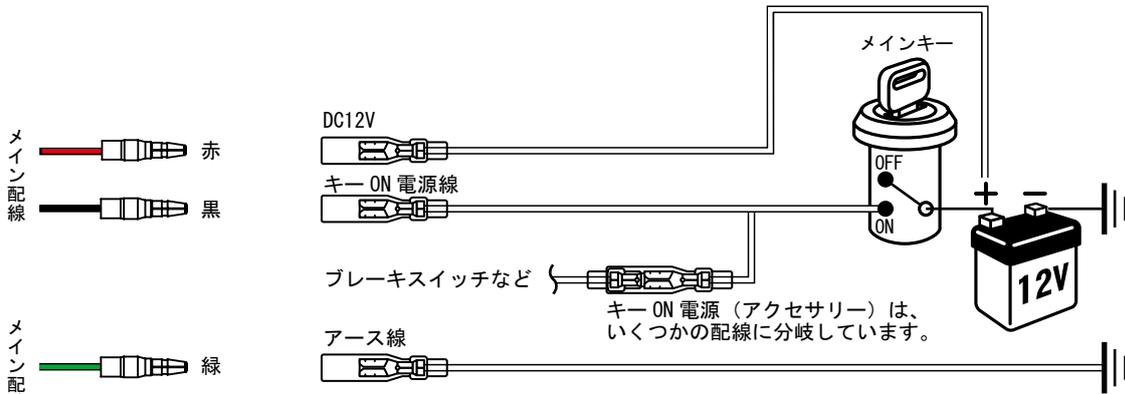
【ヘッドライトOFFでの走行禁止 / 保安部品を外したレース用車両】

ヘッドライト常時点灯車を安易な改造(断線させるだけ)によりライトOFF状態にして走行すると消費されない電力が車体全体の電圧を上げてしまいます。そのまま走行を続けると、過充電によるバッテリーの劣化や過度の負担により純正レギュレーターが故障してしまう可能性があります。ノーマルよりも高いエンジン回転数で走行するエンジン改造車では、悪影響がより強くなります。
 ヘッドライトが球切れしてしまった場合は、直ちに走行を止めるか、どうしても走行する必要がある場合はハイビームに切り替えて(光軸も調整して)下さい。この時、なるべく低回転で走行して下さい。
 レース用車両ですべての保安部品を外すには、専門的な知識と代替部品や追加部品が必要となります。

■下図はミニバイク等で多い基本的な配線の参考図です。バイクにより接続部品や配線色が異なります。
 メーター側各配線の意味を理解した上で、車体メーカー発行の配線図とよく照らし合わせ、正しく配線を接続して下さい。

■ DC12V 電源に接続

メイン配線の黒コードをキー ON 時に DC12V がかかる配線へ接続して下さい。



メイン配線
赤
黒

メイン配線
緑



キー ON (エンジン停止状態) で
メーターの電源が入ります。

■代表配線色 ※車種によって配線色の異なる場合があります。

メーカー名	キー ON 電源色	アース線色
HONDA	黒 赤 / 黒	緑
YAMAHA	茶	黒
SUZUKI	橙	黒 / 白
KAWASAKI	茶	黒 / 黄

[DC 電源とは]

＝直流電源。キー ON 時 (エンジン停止状態) からエンジン稼働中まで比較的電圧が安定しているバッテリー電源です。
 車体使用差はありますが一般的なテスターで電圧を測定すると、キー ON 時 12.5 ~ 13V 前後、走行中は ~ 14.5V 前後となります。
 ※バッテリー付き車でも、エンジン始動に伴い電圧の発生する配線 (ヘッドライトや尾灯に多い) は AC 電源となります。

[接続上の注意]

キー ON だけで電源が入らない場合はバッテリーの劣化もしくは誤配線が原因です。完全に劣化しているバッテリーを使うと、高回転時、逆に過電圧になるばかりか、過度の負担により純正レギュレーターが故障してしまう可能性があります。

[アドバイス]

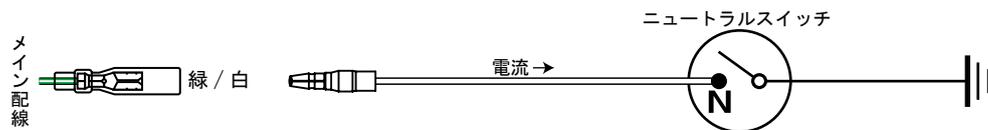
エンジンを停止状態でブレーキランプを点け、さらにウインカーを点けて下さい。点滅速度が異常であればバッテリーが弱っています。

インジケータランプ配線

下図はミニバイク等で多い基本的な配線の参考図です。バイクにより接続部品や配線色が異なります。メーター側各配線の意味を理解した上で、車体メーカー発行の配線図とよく照らし合わせ、正しく配線を接続して下さい。

■下記はLEDを点灯させる為の参考例で、車種によっては回路の仕組み上利用出来ない場合、配線方法が異なる可能性があります。

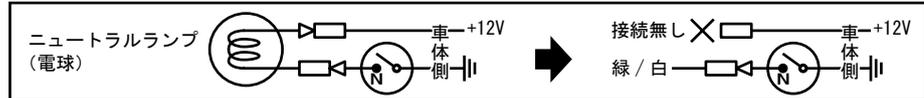
(N) ■ニュートラルランプ 緑LED(マイナス接続で点灯)
 緑/白コードをニュートラル時、アースと導通する配線へ接続して下さい。



■代表配線色

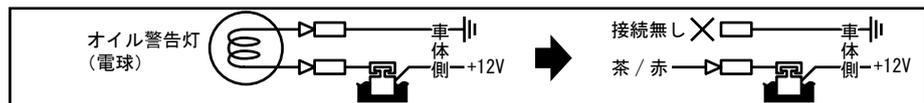
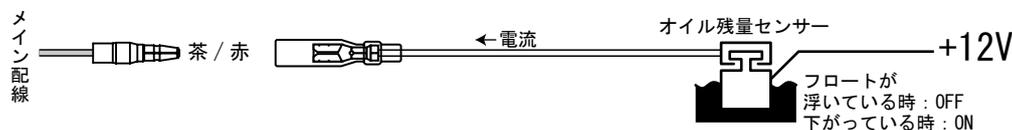
※車種によって配線色の異なる場合があります。

メーカー名	配線色
HONDA	若葉 / 赤
YAMAHA	空
SUZUKI	青 / 黒
KAWASAKI	若葉



(M) ■オイル警告灯 赤LED(プラス/マイナス接続どちらでも点灯)
 仕様上センサーからの信号を感知し、インジケータが点灯・消灯するまでに、多少タイムラグがあります。

■オイル警告灯としての利用例(プラス接続) YAMAHA 車 2ストロークスクーターなど (YAMAHA 配線色: 灰)
 茶/赤コードを警告時+12Vと導通する配線へ接続して下さい。



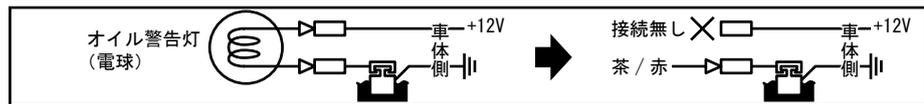
■オイル警告灯としての利用例(マイナス接続) 多いのはこちらのタイプです。
 茶/赤コードを警告時アースと導通する配線へ接続して下さい。



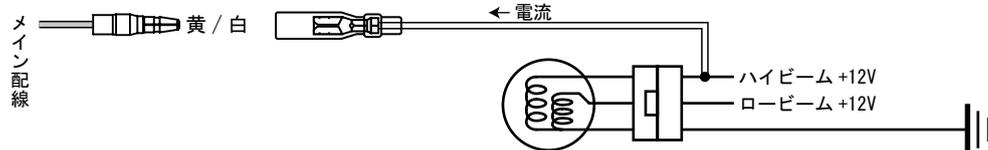
■代表配線色

※車種によって配線色の異なる場合があります。

メーカー名	配線色
HONDA	緑 / 赤
YAMAHA	黒 / 赤
SUZUKI	青 / 白
KAWASAKI	黒 / 赤

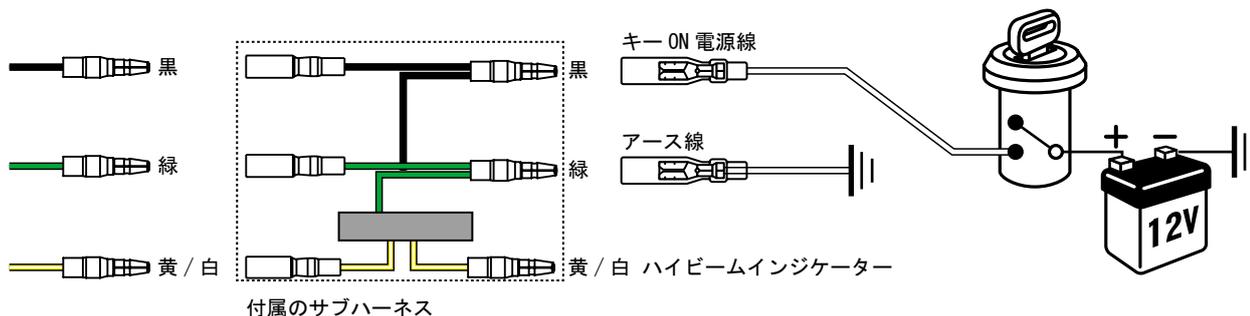


(HD) ■ハイビームインジケータ 青LED(プラス接続で点灯) 黄/白コードをハイビームの配線へ分岐接続して下さい。



■ハイビームインジケータが正常に点灯しない場合の対処法

ハイビームインジケータが全く点灯しない、又は点灯はしているが、ロービームの時も点灯しているなど、ハイビームインジケータが正常に点灯しない場合は、付属のサブハーネスを使用し、下記配線図を参考に接続する事で正常に機能します。

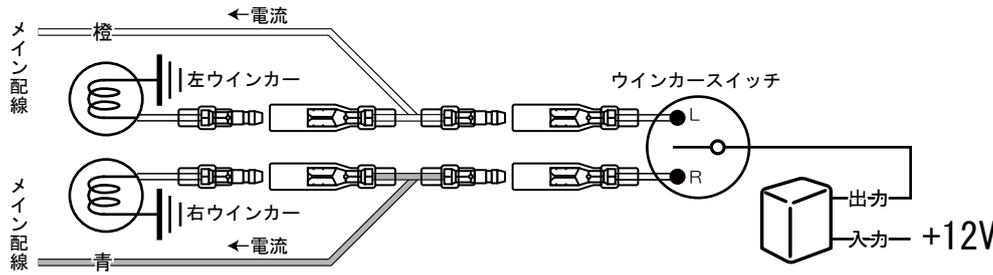


インジケータランプ配線

下図はミニバイク等で多い基本的な配線の参考図です。バイクにより接続部品や配線色が異なります。メーター側各配線の意味を理解した上で、車体メーカー発行の配線図とよく照らし合わせ、正しく配線を接続して下さい。

■下記はLEDを点灯させる為の参考例で、車種によっては回路の仕組み上利用出来ない場合、配線方法が異なる可能性があります。

■ウィンカーインジケータ 緑LED(プラス接続で点灯)
各コードをウィンカーのプラス線に割り込ませて下さい。橙コード：左ウィンカー 青コード：右ウィンカー



■ウィンカーリレー 代表配線色
※車種によって配線色の異なる場合があります。

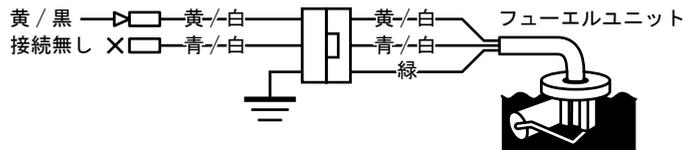
メーカー名	参考配線色	
HONDA	橙	空
YAMAHA	濃茶	濃緑
SUZUKI	黒	若葉
KAWASAKI	緑	灰

■ガソリン警告 黄LED(マイナス接続で点灯)
黄/黒コードをガソリン残量によって抵抗値の変化する配線に接続して下さい。



■同一メーカーでも車種別で配線色の異なる場合があります。

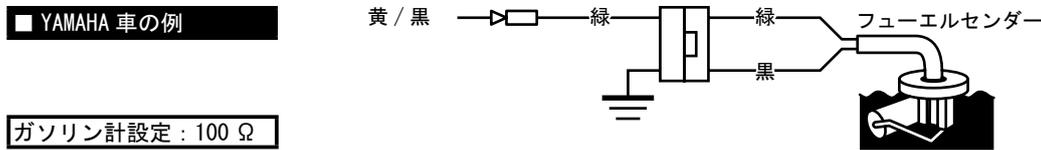
■HONDA 車の例 ■一部 HONDA 車で 100 Ωタイプが採用されています。(弊社確認車は一部年式のジャイロX)



ガソリン計設定：510 Ω

■黄/黒コードと緑コード間の抵抗値

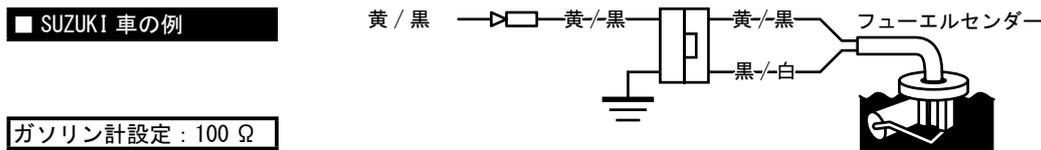
メーカー名	参考抵抗値
満タン (F)	25 ~ 45 Ω
空 (E)	400 ~ 700 Ω



ガソリン計設定：100 Ω

■黄/黒コードと黒コード間の抵抗値

メーカー名	参考抵抗値
満タン (F)	約 10 Ω
空 (E)	約 100 Ω



ガソリン計設定：100 Ω

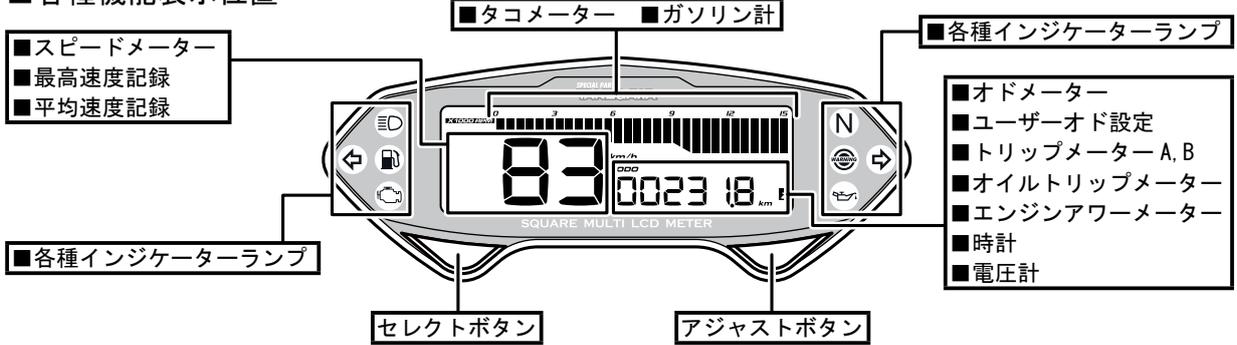
■黄/黒コードと黒/白コード間の抵抗値

メーカー名	参考抵抗値
満タン (F)	約 10 Ω
空 (E)	約 100 Ω

■警告灯 赤LED(マイナス接続で点灯)
水温警告灯などにご使用下さい。

■エンジン警告灯 黄LED(マイナス接続で点灯)
エンジンチェックライトやFI警告灯などにご使用下さい。

■各種機能表示位置



■各種機能一覧 設定方法見出し番号

	スピードメーター	表示範囲 : 0 ~ 360km/h 表示単位 1km	設定→見出し番号⑦
		タイヤ外周設定 設定範囲 300 ~ 2500mm 設定単位 1mm	設定→見出し番号①
		スピードセンサー 設定範囲 1 ~ 20 設定単位 1	
		最高速度記録 表示範囲 0 ~ 360km/h 表示単位 1km/h 平均速度記録 表示範囲 0 ~ 360km/h 表示単位 1km/h	設定→見出し番号⑫

	タコメーター	表示範囲 : 0 ~ 15000rpm (最大) 表示単位 10rpm	
		表示設定 0 ~ 10,000rpm 表示単位 :333rpm 0 ~ 12,000rpm 表示単位 :400rpm 0 ~ 15,000rpm 表示単位 :500rpm	
		最高回転数記録 表示範囲 0 ~ 15,000rpm 表示単位 10rpm	設定→見出し番号②
		タコメーター 信号設定範囲 P-0.5、P-1 ~ P-25 入力信号 / プログラム プログラム設定範囲 lo-Act、Hi-Act	

	オドメーター	表示範囲 : 0 ~ 99999.9km 表示単位 :0.1km (範囲を超えると0に戻ります)	設定→見出し番号⑨
	ユーザーオド設定	表示範囲 : 0 ~ 99999.9km	
	トリップメーター A, B	表示範囲 : 0 ~ 9999.9km 表示単位 :0.1km (範囲を超えると0に戻ります)	設定→見出し番号⑩
	エンジンオイル トリップメーター	表示範囲 : 0 ~ 9999km	設定→見出し番号⑥

	エンジンアワーメーター	表示範囲表示範囲 0 ~ 99999.9 時間 表示単位 0.1 時間	設定→見出し番号⑪
	エンジンアワーメーター A	表示範囲表示範囲 0 ~ 99999.9 時間 表示単位 0.1 時間	
	エンジンアワーメーター B	表示範囲表示範囲 0 ~ 99999.9 時間 表示単位 0.1 時間	

	ガソリン計	表示範囲 : 10 段階 ※フューエルセンサーの取付けが必要	設定→見出し番号③
		ガソリンレベル 設定範囲 抵抗値設定 100 Ω 250 Ω 270 Ω 510 Ω 1200 Ω	
		ガソリンレベル 対象車両のサービスマニュアルに記載の ユーザー設定 抵抗値を入力	
		ガソリンレベル タンク容量が満タン状態と空の状態 抵抗自動検出設定 それぞれ抵抗値を自動で検出。	
		ガソリン警告灯設定 燃料の残りが設定値を下回るとガソリン計 が点滅。	

バックライト	輝度	設定範囲 : 1 (暗い) ~ 5 (明るい)	設定→見出し番号⑤
--------	----	-------------------------	-----------

	時計	12 時間制 / 24 時間制 設定単位 1 分	設定→見出し番号④
--	----	-----------------------------	-----------

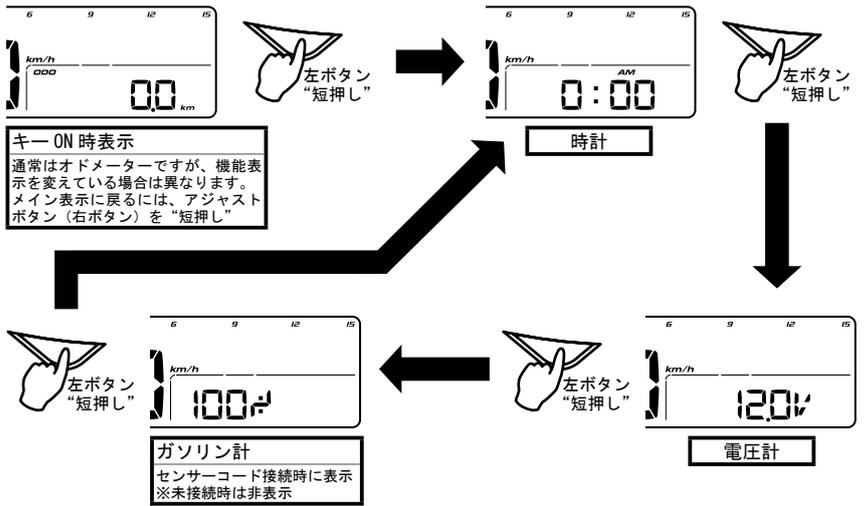
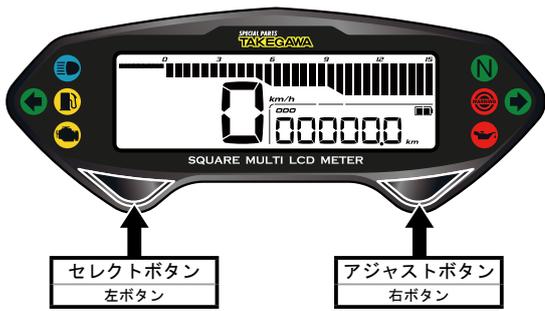
	電圧計	表示範囲 : 8 ~ 16V 表示単位 0.1V
--	-----	-----------------------------

インジケータースランプ	アイコン
ニュートラル (緑)	
右ウインカーインジケータースランプ (緑)	
警告灯 (赤)	
オイル警告灯 (赤)	
ハイビームインジケータースランプ (青)	
左ウインカーインジケータースランプ (緑)	
ガソリン計 (黄)	
エンジン警告灯 (黄)	

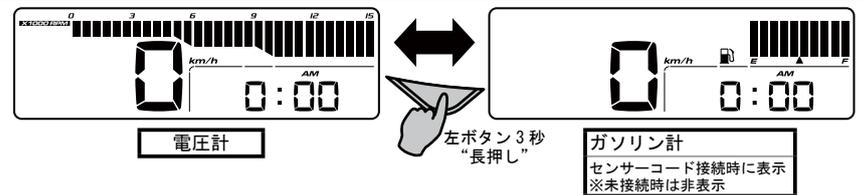
メーターのサイズ	120mm × 46mm × 20mm
メーターの重量	240g
動作電圧	DC12V
使用温度範囲	-10 ~ +60°C

セレクトボタン（左ボタン）“短押し”によるメイン画面表示切り替え

■キー ON により、メイン画面が表示された状態でセレクトボタン（左ボタン）を“短押し”する事で、画面が切り替わり各機能が表示されます。

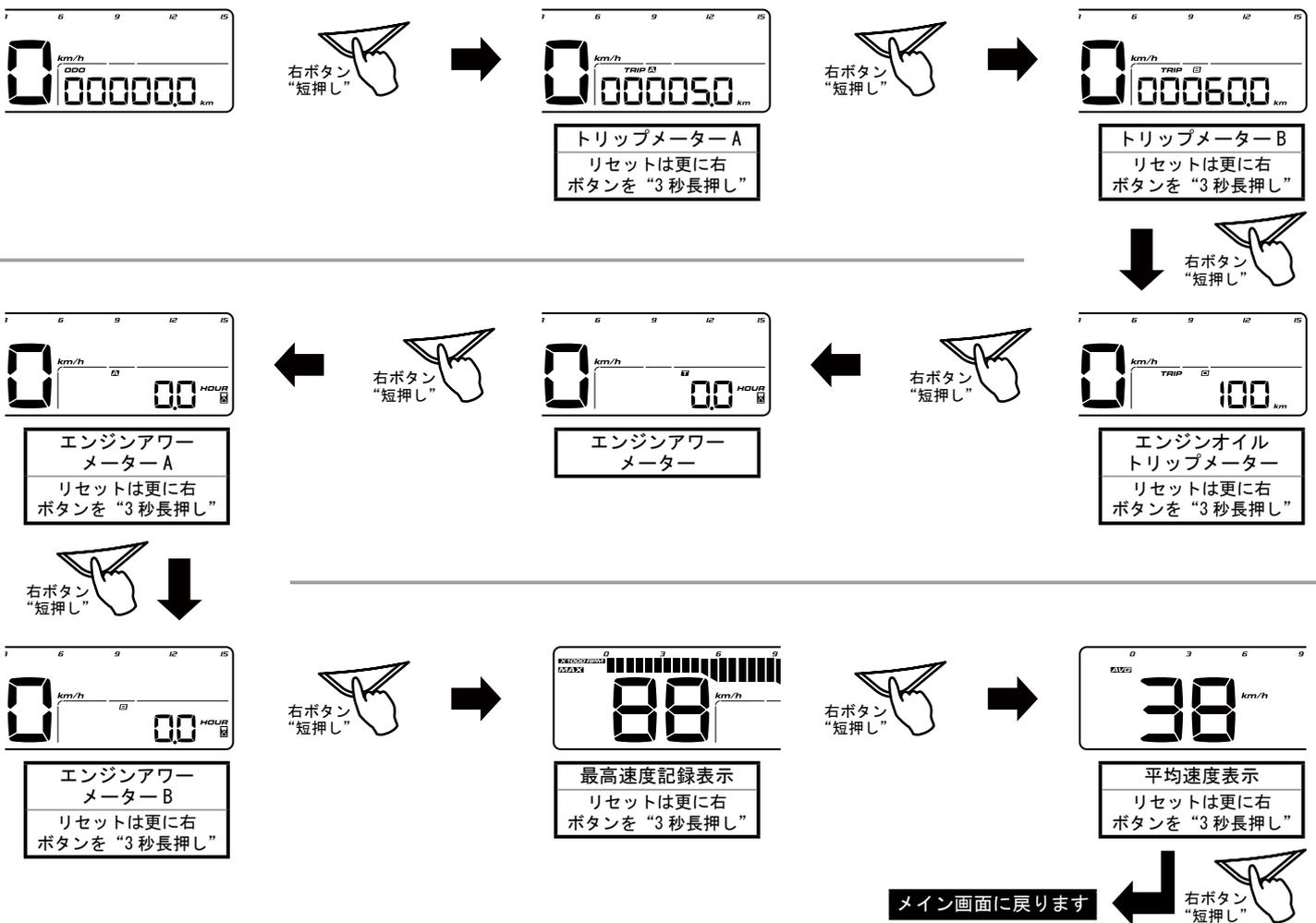


上記いずれの画面でもセレクトボタン（左ボタン）を3秒間長押しする事で、メイン画面表示されている“回転数表示”と“ガソリン計表示”の切り替えが出来ます。ガソリン計センサーコードが接続されていない場合、画面は切り替わりません。



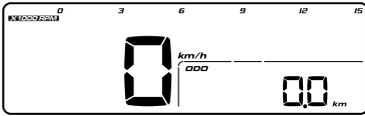
アジャストボタン（右ボタン）“短押し”によるメイン画面表示切り替えと各種機能のリセット方法

■メイン画面の表示からアジャストボタン（右ボタン）を“短押し”する事で、画面が切り替わり、各機能が表示されます。記録機能の場合、希望の項目でセレクトボタン（左ボタン）とアジャストボタン（右ボタン）を同時に“3秒長押し”する事により、リセットが行えます。



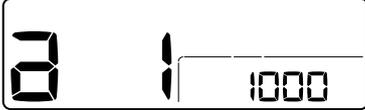
各機能設定画面の入り方との切り替え方法

- 各機能の設定画面に入るには、セレクトボタン（左ボタン）とアジャストボタン（右ボタン）を同時に“3秒長押し”します。
- 設定画面に入ると“a1”が画面に表示されます。設定する各カテゴリーはa1～a9の9項目があります。
- a1～a9への切り替えはアジャストボタン（右ボタン）“短押し”により、切り替え出来ます。（各カテゴリーは下記一覧をご確認下さい）
- 更に選択する機能の設定画面に入るには、セレクトボタン（左ボタン）を“短押し”します。
- 選択した機能内での項目（単位）等の切り替えは、セレクトボタン（左ボタン）の“短押し”になります。
- 機能内での数値の変更はアジャストボタン（右ボタン）の“短押し”になります。数値の決定はセレクトボタン（左ボタン）になります。



設定画面への切り替えは、画面表示や選択項目が、
どの状態であっても左右ボタンを3秒“長押し”
する事で設定画面への切り替わります。

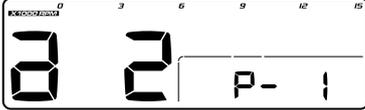
※1表示は随時点滅



a1
円周 / センシング設定
設定は更に左ボタンを
“短押し”
設定→見出し番号①



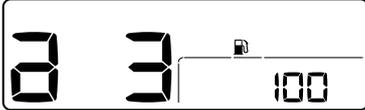
※2表示は随時点滅



a2
タコメーター入力設定
設定は更に左ボタンを
“短押し”
設定→見出し番号②



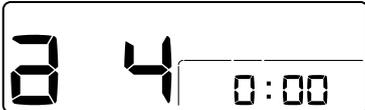
※3表示は随時点滅



a3
ガソリン計設定
ガソリンレベル抵抗値
ガソリンレベル ユーザー設定
ガソリンレベル抵抗自動検出設定
ガソリン警告灯設定
設定は更に左ボタンを“短押し”
設定→見出し番号③



※4表示は随時点滅



a4
時計設定
設定は更に左ボタンを
“短押し”
設定→見出し番号④



※5表示は随時点滅



a5
バックライト輝度設定
設定は更に左ボタンを
“短押し”
設定→見出し番号⑤



a6表示へ

a1表示に戻ります。



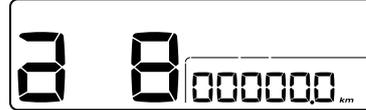
※9表示は随時点滅



a9
オドメーター設定
設定は更に左ボタンを
“短押し”
設定→見出し番号⑨



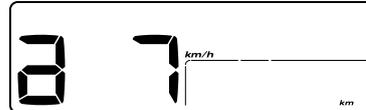
※8表示は随時点滅



a8
ユーザーオド設定
設定は更に左ボタンを
“短押し”
設定→見出し番号⑧



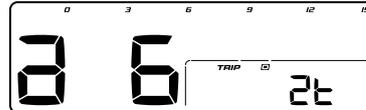
※7表示は随時点滅



a7
スピードメーター設定
設定は更に左ボタンを
“短押し”
設定→見出し番号⑦



※6表示は随時点滅

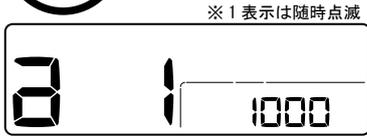


a6
エンジンオイル
トリップメーター設定
設定は更に左ボタンを
“短押し”
設定→見出し番号⑥

① a1 円周 / センシング設定

1

- セレクトボタン（左ボタン）とアジャストボタン（右ボタン）を同時に“3秒長押し”し、設定画面に入ります。
- 設定画面に入ると“a1”が画面に表示されます。そのままセレクトボタン（左ボタン）を“短押し”し、a1“円周 / センシング設定”設定画面に入ります。



左右ボタン同時3秒長押しで設定画面に入ります。“a1”が表示されます。左ボタン“短押し”で設定画面に入ります。

※設定確定に関する注意点
 数値入力機能選択後は必ず、設定トップ画面（a.1）に左ボタン（短押し）で戻り、a.1の1が点滅状態で左ボタン（長押し）でメイン画面に戻して下さい。この作業が“設定確定”となり、メーターに設定が記憶されます。
 ※上記作業を行わず、キーOFFを行うと新規設定は記憶されず、設定前の状態になります。

■a1“円周 / センシング設定”設定画面

タイヤ周長を測定し、数値（mm）を入力します。その後、金属反応式速度センサー用にスプロケットやブレーキディスクのボルト数（信号数）を入力します。



数字の切り替え 右ボタン“短押し”
 数字の決定（送り） 左ボタン“短押し”
 数字決定後は次の位に切り替わります。



※選択部分は随時点滅
 最後の位を左ボタン“短押し”で決定



信号数入力画面に切り替わります。

数字の切り替え 右ボタン“短押し”
 数字の決定（送り） 左ボタン“短押し”
 ※選択部分は随時点滅
 最後の位を左ボタン“短押し”で次の画面へ送ります。



最初の円周 / センシング設定画面“a.1”に戻ります。a.1の1が点滅した状態で、左ボタン“長押し”を行い設定を確定します。同時にメイン画面に戻ります。

左ボタン3秒“長押し”

メイン画面に戻ります。

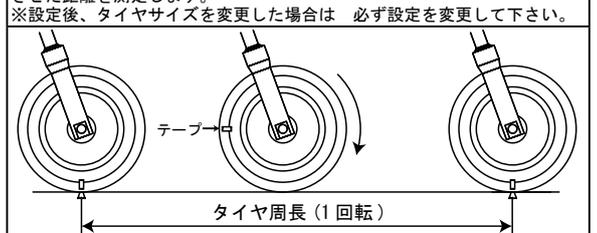


左ボタン“短押し”で設定画面に入ると、1000の位の数字が点滅します。ここでタイヤ外周（mm）を入力します。点滅している位の数字の変更は、右ボタン“短押し”で行います。数字の決定は、左ボタン“短押し”になります。決定すると次の位の数字へ切り替わり、点滅します。最後の位を決定（左ボタン“短押し”）すると入力が完了し、次の設定画面に切り替わります。※入力はまだ確定していません。ご注意ください。

入力範囲：300mm～2500mm 設定単位：1mm
 “タイヤ周長”は下記方法にてお求め頂き、入力作業を行って下さい。

■タイヤ周長の図り方

エアバルブやテープにて目印決め、それを始点とし、タイヤを1周回転させた距離を測定します。



タイヤ周長を最後の位を左ボタン“短押し”すると信号数入力画面に切り替わります。

ここで、金属反応式速度センサーで反応させる信号数を入力します。点滅している位の数字の変更は、右ボタン“短押し”で行います。

数字の決定は、左ボタン“短押し”になります。決定すると次の位の数字へ切り替わり、点滅します。最後の位を決定（左ボタン“短押し”）し、次の画面へ送ります。

例：6信号の場合“06”と入力して下さい。
 最後の位を決定（左ボタン“短押し”）し、次の画面へ送る事で、最初の円周 / センシング設定画面（a.1）に戻ります。ここで左ボタン“長押し”を行う事で、設定が確定されてメイン画面へ戻ります。

信号数設定範囲：1～20

■信号数について

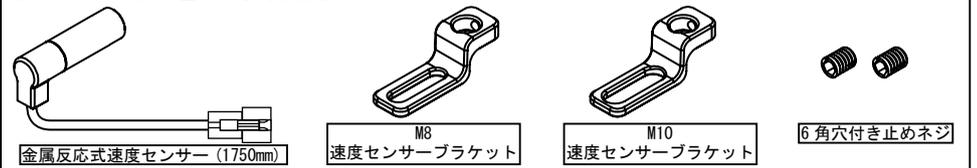
フロントの場合、ブレーキディスクのボルト数、リアの場合、スプロケットのボルト数になります。

※付属の金属反応式速度センサーを各ボルトの適切な位置に確実に固定して頂く必要があります。（下記の金属反応式速度センサーの取付方法）をご確認ください。

付属の金属反応式スピードセンサーを取り付ける場合の取付方法及び注意点



■メーター付属品：金属反応式速度センサー



付属の六角穴付き止めネジは、速度センサーブラケットに差し込み、金属反応式速度センサーの固定に使用します。センサーの金属部の範囲で止めネジを使用して下さい。

センサーの取り付けはフロントホイール側、リアホイール側のどちらでも使用可能です。適切な場所をご検討下さい。付属のM8、M10速度センサーブラケットを、他の部品の固定ボルトと共締めする場合は、お客様でブラケットの厚み分、5mm長いボルトをご用意下さい。

可動部ではコードに十分なたるみを持たせ、両サイドをタイラップ等でしっかり固定し、可動部の動きでコードの付け根（センサー側、コネクター側）に負担がかからない様にして下さい。

警告 アクスルシャフトとの共締めは、締め付けトルクに対するブラケットの強度不足が考えられますので、弊社では推奨致しません。

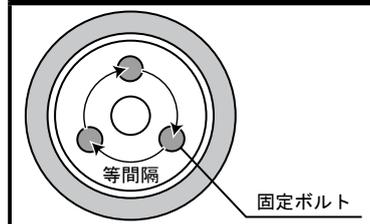
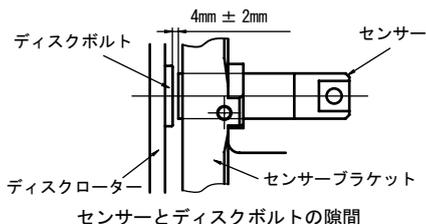
■センサーの取付け例（下詳細図）

- ①信号間隔は必ず等間隔になるようにして下さい。変則間隔では正確な速度を表示出来ません。
- ②六角穴付きボルトで信号を拾う場合、ボルトの中心でセットして下さい。

■アドバイス

もし、丁度良い所にセンサー反応部が無い場合は、ワッシャの様な小さな鉄の破片をエポキシボンド等で貼り付け、反応部を作成して下さい。

金属反応式速度センサーにあるLEDランプの点灯・無点灯により、金属反応をご確認頂き、セット位置の微調整を行って下さい。※点灯・無点灯の数は信号数ではありません。信号数はボルト数を入力して下さい。



オプションパーツ：JIS ケーブル式速度センサーを取付ける場合の取付方法と注意事項

1

■スクエアマルチLCDメーターは、付属品の金属反応式速度センサーとは別にオプションパーツとして“JISケーブル式速度センサー”があります。このJISケーブル式速度センサーは、JIS規格に基づいたケーブル差し込み部形状（下記参考図）を採用している為、別途ご購入頂く事で、スピードメーターケーブル仕様車への取り付けが可能となります。

■別売 JISケーブル式速度センサーセット（コード長 300mm）05-06-0012 ※セットにはJISケーブル式速度センサー用ステークキットが付属

別売 JISケーブル式速度センサーの接続

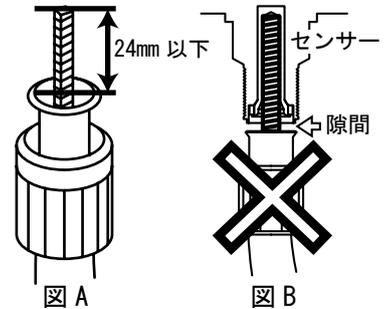
付属のJISケーブル式速度センサーの上限回転数は4200rpm ≒ 180km/h相当まで。180km/h以上の速度表示の必要な場合は、金属反応式速度センサーをご使用下さい。メーターの最高表示は360km/hまで。ケーブルがメーターケーブル接続部の奥まで差し込んだ事を確認してから、ケーブルロックナットを締めて下さい。走行中にケーブルの接続が外れないようプライヤーなどを使いしっかりと取り付けて下さい。取り付け後も緩みが無いか定期的に点検して下さい。

JISケーブル式速度センサー



別売 JISケーブル式速度センサーセット

品番 05-06-0012



■当製品はJIS規格に基づいたケーブル差し込み部形状を採用しておりますが、輸入車及び一部国産車ではケーブル加工が必要な場合があります。
※ケーブルアウターからのケーブルの飛び出し量を測って下さい（図A）。24mmを超える場合はその部分をカットして下さい。
図Bのように底つきし、上に押し上げた状態で使用されますと回転部が激しく磨耗してしまい、正確な速度を認識出来なくなってしまいます。

JISケーブル式速度センサーの速度信号長さ設定と速度信号回数設定について

■車種に関わらず、ノーマルタイヤ、ノーマルメーターギアを使用している場合、メーター側の設定は714mm、6信号です。国内車種はJIS規格によりメーターケーブル回転数が1400rpm時60km/hと定められおり、これを換算した値が714mm、6信号である為です。他車種のホイール流用などの場合でも、そのホイール用のメーターギアをセットで使用すれば、同様に標準補正值は714mm、6信号です。
■メーターギアはノーマルを使用しながら、タイヤ周長がノーマルから変化した場合は速度補正の必要があります。外品のインチアップホイールに交換した場合、タイヤサイズを変更した場合。

速度補正值調べ方 1

■メーターギアと現在装着している改造後タイヤ周長から割り出す方法です。
※分解時に破損の恐れがあります。十分に気を付けて作業を行って下さい。

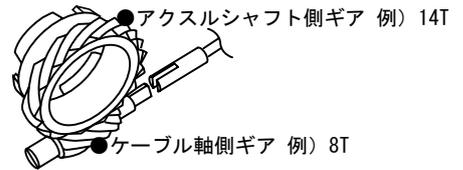
メーターギアボックス内部

1. メーターギアを分解してギア山数を数えます。

数値 A
ケーブル軸側

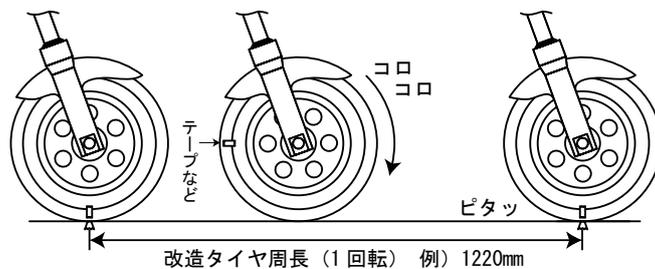
数値 B
アクスルシャフト側

ギアボックス種類	モンキー(ノーマル)	武川 10 インチ用
ケーブル軸側	8T	9T
アクスルシャフト側	13T	17T



2. テープなどでタイヤと地面に印を付け、改造タイヤを1回転させてその距離を測ります。

数値 C
タイヤ周長 (mm)
例) 1220mm



3. 下記計算式から値を割り出す事が出来ます。太枠内の数値が“速度信号長さ設定”の値となります。“速度信号回数設定”は“6”を入力して下さい

$$\frac{\text{数値 A (ケーブル軸側)}}{\text{数値 B (アクスルシャフト側)}} \times \text{数値 C (タイヤ周長 (mm))} = \text{補正值}$$

例) $\frac{8}{14} \times 1220 = 697$ mm

速度補正值調べ方 2

■ノーマルタイヤと変更後のタイヤを比較する方法です。

それぞれのタイヤ周長を測って下さい。下記計算式から値を割り出す事が出来ます。太枠内の数値が“速度信号長さ設定”の値となります。速度信号回数設定”は“6”を入力して下さい

$$\frac{\text{数値 A (変更後のタイヤ周長)}}{\text{数値 B (ノーマルタイヤ周長)}} \times 714 = \text{補正值}$$

例) $\frac{1220}{1250} \times 714 = 697$ mm

タイヤ周長の数値 (mm) と速度信号回数の入力方法は前ページをご覧ください。

② a2 タコメーター入力設定

2

- セレクトボタン（左ボタン）とアジャストボタン（右ボタン）を同時に“3秒長押し”し、設定画面に入ります。
- 設定画面に入ると“a1”が画面に表示されます。アジャストボタン（右ボタン）“短押し”により、切り替えを行い“a2”に合わせ、セレクトボタン（左ボタン）を“短押し”し、a2 “タコメーター入力設定”設定画面に入ります。

※2表示は随時点滅



左右ボタン同時3秒長押しで設定画面に入ります。“a1”が表示されます。右ボタン“短押し”でa2 “タコメーター入力設定”設定画面へ切り替えます。左ボタン“短押し”で設定画面に入ります。

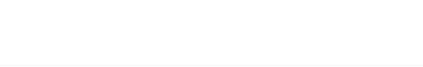
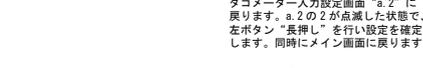
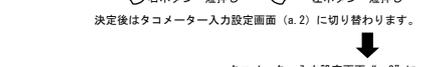
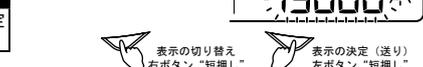
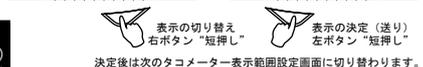
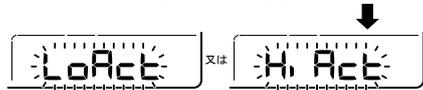
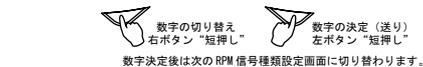
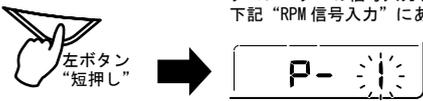
※設定確定に関する注意点

数値入力・機能選択後は必ず、設定トップ画面（a.2）に左ボタン（短押し）で戻り、a.2の2が点滅状態で左ボタン（長押し）でメイン画面に戻って下さい。この作業が“設定確定”となり、メーターに設定が記憶されます。

※上記作業を行わず、キーOFFを行うと新規設定は記憶されず、設定前の状態になります。

■a2 “タコメーター入力設定”設定画面

タコメーターの信号入力を行います。車両に合わせて接続方法、RPM信号回数、種類を設定して下さい。下記“RPM信号入力”にある各種設定を参考にし、RPMコードの接続と信号回数の入力を行って下さい。



タコメーター入力数	発火数
P0.5	2回転1発火
P1	1回転1発火
P2	1回転2発火
P3	1回転3発火
P4	1回転4発火
P5	1回転5発火
P25	1回転25発火

設定の確定とメイン画面に戻ります。

下記“RPM信号入力”を参考にRPMコードの接続し、信号回数を確定した後、タコメーター入力設定にて信号回数を入力します。左ボタン“短押し”で設定画面に入ると、数字が点滅します。ここでRPM信号回数を入力します。点滅している位の数字の変更は、右ボタン“短押し”で行います。数字の決定は、左ボタン“短押し”になります。決定すると次の“RPM信号種類設定”切り替わりします。※入力はまだ確定していません。ご注意ください。

RPM信号回数設定範囲:P0.5 P1~P25

RPM信号種類設定

※下記“RPM信号入力”を参考に“Hi-Act”、又は“Lo-Act”を選択して下さい。点滅している文字の変更は、右ボタン“短押し”で行います。決定は、左ボタン“短押し”になります。決定すると次の“タコメーター表示範囲の設定”切り替わり入力完了となります。※入力はまだ確定していません。ご注意ください。

RPM信号種類設定:Hi-Act Lo-Act

タコメーター表示範囲の設定 10000rpm/12000rpm/15000rpmの3種類点滅している数字の変更は、右ボタン“短押し”で行います。この設定を決定（左ボタン“短押し”）すると入力完了となり、最初のタコメーター入力設定画面（a.2）に戻ります。ここで左ボタン“長押し”を行う事で、設定が確定されてメイン画面に戻ります。

回転数表示範囲:10000rpm・12000rpm・15000rpm

※タコメーター入力数を設定し、正常に作動しない場合、下記“RPM信号入力”を参考に別の設定に切り替えて試して下さい。

RPM信号入力

1. 悪影響を及ぼす社外部品を使わないで下さい。

- スパーク力を強くすると、それに応じて点火ノイズも増大します。イグニッションコイルやプラグコード、プラグキャップ、レーシングプラグ（抵抗無しタイプ）、社外 CDI 等の改造が大きな悪影響を及ぼす事があります。
- 点火系部品の劣化も点火ノイズ増大に関係します。特にプラグコード表面の劣化&水濡れには注意して下さい。

2. 様子を確認しながら配線作業を行ってください。

信号を拾う方法は複数あります。ご面倒でも、必ず推奨の方法から順に試して下さい。タコメーターが正常に動く範囲で可能な限り悪影響の低い（信号電圧が低い、ノイズが少ない）方法を見つけて下さい。

車両に合わせて接続方法、RPM信号回数、種類を設定して下さい。

RPM信号回数設定：クランクシャフト1回転あたりの信号回数の設定です。設定値が合っていないと、きっちり半分、2倍表示、3倍・・となります。

RPM信号種類設定：接続方法に合った、読み込みプログラムの種類を選択します。切り替えにより、同じ接続方法でも正常作動する事があります。

【A接続】【B接続】【C接続】RPM信号入力（3種類）※各接続方法の詳細につきましては、次ページ以降をご確認下さい。

【A接続】プラグコード表面 P13参照
【B接続】イグニッションコイル1次側 P13参照
【C接続】ピックアップパルスの読み込み P14参照

バイクの点火方式により、適した接続方法が異なります。

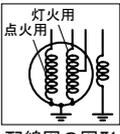
点火方式の見分け方

お客様のバイクの点火方式を知る事で、適した接続方法を見つけ易くなります。★：確実な条件 ポイント点火方式（当製品非対応）以外の点火方式は大きく3種類に分かれます。△：異なる場合がある。

C.D.I. 点火方式 バッテリーレス車や小排気量キャブレター車に多い。

基本構造	ステーターに点火用コイルがあり、その電力をCDIに蓄電し点火を行う。
見分け方	★CDIにDC12V電源（キーON）が接続されていない。 ★ステーターに点火用コイルがある（右図）。 △フライホールの突起は1つである事がほとんど。
接続方法	【A接続】【B接続】【C接続】

12V モンキー（キャブ）系エンジン・エイブ（キャブ）系エンジン



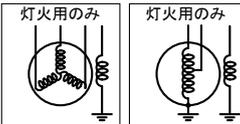
点火用コイルについて
点火用コイルには0.1mm程度の極めて細い銅線が巻かれており、外周は耐熱シートで保護されている事が多い。0.8~1mm程度の銅線が巻かれているのは灯火用コイル。

配線図の図形

DC-C.D.I. 点火方式 高年式の小排気量キャブレター車や中型クラス以上のキャブレター車に多い。

基本構造	バッテリー電力を昇圧回路で高電圧化し、点火を行う。通称バッテリー点火。
見分け方	★CDIにDC12V電源が接続されている。 ★ステーターに点火用コイルが無い（右図）。 △フライホールの突起は1つである事がほとんど。
接続方法	【A接続】【B接続】【C接続】

KSRI110・シグナスX（キャブ）・アドレスV125GK7以前 .etc

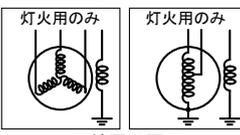


配線図の図形

フルトランジスタ点火方式 インジェクション車や中型クラス以上のキャブレター車に多い。

基本構造	イグニッションコイルへのバッテリー電力の通電をトランジスタが制御し、点火を行う。
見分け方	★イグニッションコイルにDC12V電源が接続されている。 ★ステーターに点火用コイルが無い（右図）。 △フライホールの突起が複数ある事が多い。
接続方法	【B接続】【C接続】

モンキーFI・エイブFI・シグナスX FI・アドレスV125GK9以降 .etc



配線図の図形

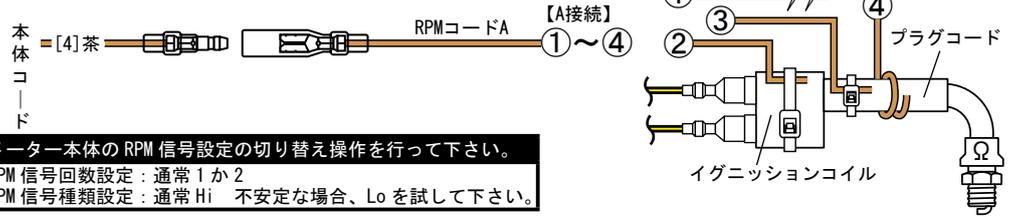
2

RPM 信号入力 【A 接続】 配線方法

② a2 RPM 信号入力

C. D. I. 点火方式 DC-C. D. I. 点火方式 点火方式の見分け方は前ページをご覧ください。

【A 接続】



メーター本体の RPM 信号設定の切り替え操作を行って下さい。
RPM 信号回数設定：通常 1 か 2
RPM 信号種類設定：通常 Hi 不安定な場合、Lo を試して下さい。

↑ 信号の強さ ↓

- ① 付近のフレームやカウルなど車体側にコードを貼り付けるとアンテナ状態で読み取ります。
 - ② イグニッションコイルボディー表面に 20mm 程度コードを沿わせてタイラップ等で固定。
 - ③ プラグコードに 20mm ~ 30mm 程度を沿わせてタイラップ等で固定。沿わず長さが長いほど信号が強くなります。
 - ④ プラグコードに巻き付け、発生した電気で信号を拾います。巻き付け回数を増やすほど信号が強くなります。
- 多くの場合、④の方法で 3 回転ほど巻き付けると、正しく読み取れます。

トラブルシューティング

- 指針の上下の動きは安定しているが、実際よりも少ない値や多い値を指す。
→ 「RPM 信号回数設定」が合っていない可能性があります。合っていないとちょうど 2 倍や半分の値を指します。
 - 指針が全く上がらない、高回転側で指針が下がる。→ 信号が強くなる方法を試して下さい。
 - 指針が実際よりも多い値を指す。指針が振り切る。→ 信号が弱くなる方法を試して下さい。
- ※調整により、微妙な数値誤差が生じる可能性はほとんどありません。正常な数値を表示出来るか、出来ないかはっきりしています。

RPM コード A を絶縁テープなどで仮止めし、軽い空吹かしにて作動確認を行って下さい。

警告 RPM コードを仮止めた状態での“実走行”は危険ですのでお止め下さい。

- 【A 接続】の③や④で RPM 信号入力を採用した場合、別売の熱収縮チューブを使い仕上げて下さい。
- ・ プラグコードからプラグキャップを外します。
- ・ 熱収縮チューブを RPM コード A の上まで通し、ドライバーなどで収縮させて下さい。(収縮温度：90℃以上、約 50%の内径まで収縮)
- ・ RPM コードが抜けないようにタイラップで上からしっかり止めて下さい。
- ・ 最後にプラグキャップをしっかり取り付けて下さい。

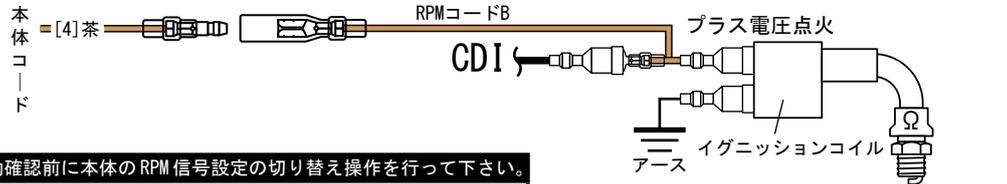


熱収縮チューブφ 12X50 (別売)
3 個入り 品番 00-00-2809

RPM 信号入力 【B 接続】 配線方法

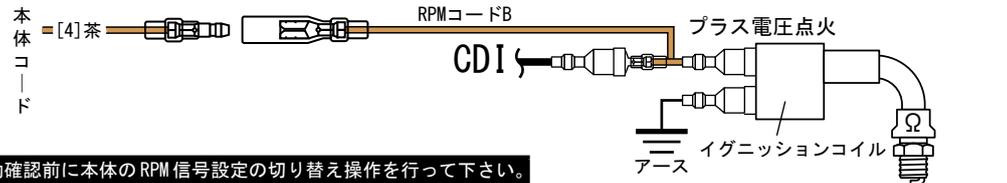
C. D. I. 点火方式 DC-C. D. I. 点火方式 フルトランジスタ点火方式 点火方式の見分け方は前ページをご覧ください。点火方式により、説明内容が異なります。

C. D. I. 点火方式 【B 接続】



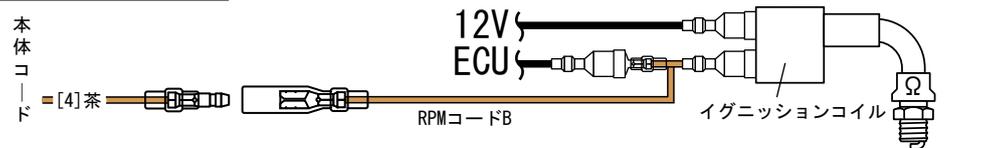
作動確認前に本体の RPM 信号設定の切り替え操作を行って下さい。
RPM 信号回数設定：通常 1 か 2
RPM 信号種類設定：Hi を試し、不安定な場合のみ Lo を試す。
※アース線が無い場合があります。(コイル本体のネジ固定部がアース接続を兼ねている)

DC-C. D. I. 点火方式 【B 接続】



作動確認前に本体の RPM 信号設定の切り替え操作を行って下さい。
RPM 信号回数設定：通常 0.5 か 1 か 2
RPM 信号種類設定：Lo を試し、不安定な場合のみ Hi を試す。
※アース線が無い場合があります。(コイル本体のネジ固定部がアース接続を兼ねている)

フルトランジスタ点火方式 【B 接続】



作動確認前に本体の RPM 信号設定の切り替え操作を行って下さい。
RPM 信号回数設定：通常 0.5 か 1
RPM 信号種類設定：Hi
車種により読み取れない事例があります。

トラブルシューティング

- 指針の上下の動きは安定しているが、実際よりも少ない値や多い値を指す。
→ 「RPM 信号回数設定」が合っていない可能性があります。合っていないとちょうど 2 倍や半分の値を指します。
 - 指針が全く上がらない。→ 「RPM 信号種類設定」が合っているかを確認して下さい。
 - 指針が実際よりも多い値を指す。指針が振り切る。→ 「RPM 信号種類設定」が合っているかを確認して下さい。
- ※調整により、微妙な数値誤差が生じる可能性はほとんどありません。正常な数値を表示出来るか、出来ないかはっきりしています。

② a2 RPM 信号入力

2

RPM 信号入力 【C 接続】 配線方法

C. D. I. 点火方式 DC-C. D. I. 点火方式 フルトランジスタ点火方式 点火方式の見分け方は前ページをご覧ください。

接続作業の前にフライホイール外周にある突起の数がメーター本体の設定範囲かどうか確認して下さい。
設定範囲：0.5、1、1.5、2、2.5、3、4、5、6、9、10、11、12、17、18、23、24、34、36

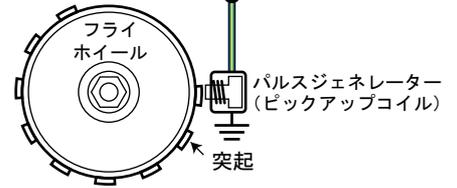
【C 接続】

本
体
コ
ー
ド



フライホイール外周にある突起の数が設定範囲にある物に対応します。(不等間隔対応)

ECU/CDI



作動確認前に本体のRPM信号設定の切り替え操作を行って下さい。

RPM信号回数設定：突起の数を選択

RPM信号種類設定：Loを試し、不安定な場合のみHiを試す。

RPM信号回数設定の例



トラブルシューティング

- 指針の上下の動きは安定しているが、実際よりも少ない値や多い値を指す。
→ 「RPM信号回数設定」が合っていない可能性があります。合っていないとちょうど2倍や半分の値を指します。
- 指針が全く上がらない。→ 「RPM信号種類設定」が合っているかを確認して下さい。
- 指針が実際よりも多い値を指す。指針が振り切る。→ 「RPM信号種類設定」が合っているかを確認して下さい。

参考情報 よくご質問頂く車両についての作動方法を紹介します。※この情報は接続方法を限定するものではありません。

車種	エンジン仕様	点火	接続	メーター設定
12V モンキー	キャブレター	C. D. I.	共通	A 接続 (A-④3巻き)
12V ゴリラ	キャブレター	C. D. I.		B 接続 (黒/黄コード)
エイブ50/100	キャブレター	C. D. I.		C 接続 (青/黄コード)
XR50/100 Motard	キャブレター	C. D. I.		1 - Hi

車種	エンジン仕様	点火	接続	メーター設定
モンキー (F1)	インジェクション	フルトランジスタ	共通	A 接続 不可
エイブ50 (F1)	インジェクション	フルトランジスタ		B 接続 (桃/青コード)
エイブ50 タイプD	インジェクション	フルトランジスタ		C 接続 (青/黄コード)

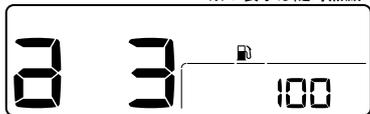
車種	エンジン仕様	点火	接続	メーター設定
KSR110	キャブレター	DC-CDI	C 接続 (青/黄コード)	1 - Hi
シグナス X (F1)	インジェクション	フルトランジスタ	B 接続 (赤コード)	0.5 - Hi
アドレス V125 GK7	インジェクション	DC-CDI	A 接続 (A-④3巻き)	0.5 - Hi
アドレス V125 GK9	インジェクション	フルトランジスタ	B 接続 (黒/青コード)	0.5 - Lo
			B 接続 (青コード)	0.5 - Hi

③ a3 ガソリン計設定

3

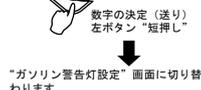
- セレクトボタン（左ボタン）とアジャストボタン（右ボタン）を同時に“3秒長押し”し、設定画面に入ります。
- 設定画面に入ると“a1”が画面に表示されます。アジャストボタン（右ボタン）“短押し”により、切り替えを行い“a3”に合わせ、セレクトボタン（左ボタン）を“短押し”し、a3 “ガソリン計設定”設定画面に入ります。

※3表示は随時点滅



数字の切り替え
右ボタン “短押し”

数字の決定 (送り)
左ボタン “短押し”

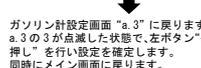


“ガソリン警告灯設定”画面に切り替わります。

数字の決定 (送り)
左ボタン “短押し”



数字の決定 (送り)
左ボタン “短押し”



ガソリン計設定画面“a.3”に戻ります。
a.3の3が点滅した状態で、左ボタン“長押し”を行い設定を確定します。
同時にメイン画面に戻ります。

左ボタン“短押し”で設定画面に入ると、数字が点滅します。ここで5種類の抵抗値から選択します。点滅している数字の変更は、右ボタン“短押し”で行います。数字の決定は、左ボタン“短押し”になります。左ボタン“短押し”で決定すると設定が完了し、“ガソリン警告灯設定”画面に切り替わります。※入力はまだ確定していません。ご注意ください。この設定を確定するには更に左ボタン“短押し”し、最初のガソリン計設定画面(a.3)に戻ります。ここで左ボタン“長押し”を行う事で、設定が確定されてメイン画面へ戻ります。

設定可能抵抗値：100Ω・250Ω・270Ω・510Ω・1200Ω・SW
SWは非表示設定となります。

ガソリン警告灯設定に関しましてはP16（下部）をご覧ください。

左右ボタン同時3秒長押しで設定画面に入ります。“a1”が表示されます。右ボタン“短押し”でa3 “ガソリン計設定”設定画面へ切り替えます。左ボタン“短押し”で設定画面に入ります。

※設定確定に関する注意点
数値入力・機能選択後は必ず、設定トップ画面(a.3)に左ボタン（短押し）で戻り、a.3の3が点滅状態で左ボタン（長押し）でメイン画面に戻して下さい。この作業が“設定確定”となり、メーターに設定が記憶されます。
※上記作業を行わず、キーOFFを行うと新規設定は記憶されず、設定前の状態になります。

左ボタン3秒 “長押し” → 設定の確定とメイン画面に戻ります。

- セレクトボタン（左ボタン）とアジャストボタン（右ボタン）を同時に“3秒長押し”し、設定画面に入ります。
- 設定画面に入ると“a1”が画面に表示されます。アジャストボタン（右ボタン）“短押し”により、切り替えを行い“a3”に合わせ、セレクトボタン（左ボタン）を“短押し”し、a3 “ガソリン計設定”設定画面に入ります。

※3表示は随時点滅



表示の決定 (送り)
左ボタン “短押し”



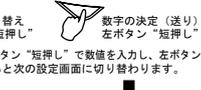
数字への移動 (送り)
左ボタン “短押し”



数字への移動 (送り)
左ボタン “短押し”



数字への移動 (送り)
左ボタン “短押し”



数字への移動 (送り)
左ボタン “短押し”



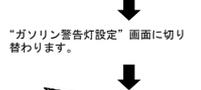
数字への移動 (送り)
左ボタン “短押し”



数字への移動 (送り)
左ボタン “短押し”



数字の決定 (送り)
左ボタン “短押し”



数字の決定 (送り)
左ボタン “短押し”

“USER”表示の状態では左ボタン“短押し”で設定画面に入ると、Empty（空）の“E”表示とフューエルゲージバーが点滅します。更に左ボタン“短押し”で数字への点滅にします。ここでサービスマニュアルに明記の抵抗値を入力します。点滅している数字の変更は、右ボタン“短押し”で行います。数字の決定は、左ボタン“短押し”になります。数字は右ヅメ（イラストは90と入力）左ボタン“短押し”で決定すると次のFull（満タン）の“F”表示画面に切り替わります。

左右ボタン同時3秒長押しで設定画面に入ります。“a1”が表示されます。右ボタン“短押し”でa3 “ガソリン計設定”設定画面へ切り替えます。左ボタン“短押し”で設定画面に入ります。

※設定確定に関する注意点
数値入力・機能選択後は必ず、設定トップ画面(a.3)に左ボタン（短押し）で戻り、a.3の3が点滅状態で左ボタン（長押し）でメイン画面に戻して下さい。この作業が“設定確定”となり、メーターに設定が記憶されます。
※上記作業を行わず、キーOFFを行うと新規設定は記憶されず、設定前の状態になります。

数字の切り替え
右ボタン “短押し”

数字の決定 (送り)
左ボタン “短押し”

最後の位の点滅で右ボタン“短押し”で数値を入力し、左ボタン“短押し”で決定すると次の設定画面に切り替わります。

Full（満タン）の“F”設定画面に入ると“F”表示とフューエルゲージバーが点滅します。更に左ボタン“短押し”で数字への点滅にします。ここでサービスマニュアルに明記の抵抗値を入力します。点滅している数字の変更は、右ボタン“短押し”で行います。数字の決定は、左ボタン“短押し”になります。数字は右ヅメ（イラストは10と入力）左ボタン“短押し”で決定すると設定が完了し、“ガソリン警告灯設定”画面に切り替わります。※入力はまだ確定していません。ご注意ください。この設定を確定するには更に左ボタン“短押し”し、最初のガソリン計設定画面(a.3)に戻ります。ここで左ボタン“長押し”を行う事で、設定が確定されてメイン画面へ戻ります。

参考）“F” Full（満タン）4～10Ω “E” Empty（空）90～100Ω
上の記載がある場合は90Ωと10Ωと入力する事を推奨します。

左ボタン3秒 “長押し” → 設定の確定とメイン画面に戻ります。

ガソリン計設定画面“a.3”に戻ります。
a.3の3が点滅した状態で、左ボタン“長押し”を行い設定を確定します。
同時にメイン画面に戻ります。

③ a3 ガソリン計設定

3

- セレクトボタン（左ボタン）とアジャストボタン（右ボタン）を同時に“3秒長押し”し、設定画面に入ります。
- 設定画面に入ると“a1”が画面に表示されます。アジャストボタン（右ボタン）“短押し”により、切り替えを行い“a3”に合わせ、セレクトボタン（左ボタン）を“短押し”し、a3“ガソリン計設定”設定画面に入ります。

■a3 “ガソリンレベル 抵抗自動検出設定” 設定画面

⚠️ ご注意ください。
ガソリンレベル 抵抗自動検出設定は燃料タンクの容量の把握と設定時に必要となるトータル燃料の配分(%)作業が必要になります。又、燃料タンクに弊社製メーターが対応しているフューエルセンサー（純正）装着車である事が前提となります。
※カスタム燃料タンクには対応しない場合があります。



■設定前に車両のガソリンを減らし、実際にガソリンが少ない状態にします。

“ガソリンレベル抵抗値”設定画面で、右ボタン“短押し”を数回押し、下記イラストのように“USER”と表示されるまで表示を送り、左ボタン“短押し”で設定画面に入ります。
ここで、ガソリンレベル 抵抗自動検出設定を行います。
※ガソリン計センサーコードの接続が必要になります。
※接続されていない場合、抵抗自動検出が実行されません。

※3表示は随時点滅



左ボタン
“短押し”

左右ボタン同時3秒長押しで設定画面に入ります。“a1”が表示されます。右ボタン“短押し”でa3“ガソリン計設定”設定画面へ切り替えます。左ボタン“短押し”で設定画面に入ります。



表示の決定（送り）
左ボタン“短押し”

“USER”表示の状態左ボタン“短押し”で設定画面に入ると、Empty（空）の“E”表示とフューエルゲージバーが点滅します。



左ボタンを5回
“短押し”
抵抗自動検出

ここで設定前に行っていた“ガソリンが少ない状態”で左ボタンを5回押し、ガソリン計最低値の抵抗値を自動で検出します。



表示の切り替え
右ボタン“短押し”

■車両のガソリンを満タン状態にします。

※車両を静止させガソリンの油面が変化しない様に注意して下さい。

右ボタン“短押し”でFull（満タン）の“F”（“F”表示とフューエルゲージバーが点滅）の設定画面に入ります。



左ボタンを5回
“短押し”
抵抗自動検出

“ガソリンが満タン状態”で左ボタンを5回押し、ガソリン計最高値の抵抗値を自動で検出します。



“ガソリン警告灯設定”画面に切り替わります。

左ボタン“短押し”で決定すると設定が完了し、“ガソリン警告灯設定”画面に切り替わります。

※入力はまだ確定しておりません。ご注意ください。
この設定を確定するには更に左ボタン“短押し”し、最初のガソリン計設定画面（a.3）に戻ります。ここで左ボタン“長押し”を行う事で、設定が確定されてメイン画面へ戻ります。



数字の決定（送り）
左ボタン“短押し”

※設定確定に関する注意点
数値入力機能選択後は必ず、設定トップ画面（a.3）に左ボタン（短押し）で戻り、a.3の3が点滅状態で左ボタン（長押し）でメイン画面に戻して下さい。この作業が“設定確定”となり、メーターに設定が記憶されます。
※上記作業を行わず、キーOFFを行うと新規設定は記憶されず、設定前の状態になります。

ガソリン計設定画面“a.3”に戻ります。
a.3の3が点滅した状態で、左ボタン“長押し”を行い設定を確定します。
同時にメイン画面に戻ります。



左ボタン3秒
“長押し”

設定の確定とメイン画面に戻ります。

- セレクトボタン（左ボタン）とアジャストボタン（右ボタン）を同時に“3秒長押し”し、設定画面に入ります。
- 設定画面に入ると“a1”が画面に表示されます。アジャストボタン（右ボタン）“短押し”により、切り替えを行い“a3”に合わせ、セレクトボタン（左ボタン）を“短押し”し、a3“ガソリン計設定”設定画面に入ります。

■a3 “ガソリン警告灯設定” 設定画面

ガソリン計設定画面で表示される設定画面で、右ボタン“短押し”を数回押し、下記イラストのように“30%”（数字は異なる場合があります）と表示されるまで表示を送り、左ボタン“短押し”で設定画面に入ります。
ここで、ガソリン警告灯設定の入力を行います。※ガソリン計センサーコードの接続が必要になります。

※3表示は随時点滅



左ボタン
数回
“短押し”

左右ボタン同時3秒長押しで設定画面に入ります。“a1”が表示されます。右ボタン“短押し”でa3“ガソリン計設定”設定画面へ切り替えます。左ボタン“短押し”で設定画面に入ります。



数字の切り替え
右ボタン“短押し”

左ボタン“短押し”で設定画面に入ると、数字が点滅します。

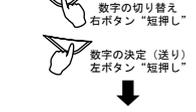
ここで5種類の%から選択します。

点滅している数字の変更は、右ボタン“短押し”で行います。

数字の決定は、左ボタン“短押し”になります。

※入力はまだ確定しておりません。ご注意ください。

左ボタン“短押し”で決定すると設定が完了し、最初のガソリン計設定画面（a.3）に戻ります。ここで左ボタン“長押し”を行う事で、設定が確定されてメイン画面へ戻ります。



数字の決定（送り）
左ボタン“短押し”

設定可能抵抗値：10%・20%・30%・40%・50%

ガソリン計設定画面“a.3”に戻ります。
a.3の3が点滅した状態で、左ボタン“長押し”を行い設定を確定します。
同時にメイン画面に戻ります。



左ボタン3秒
“長押し”

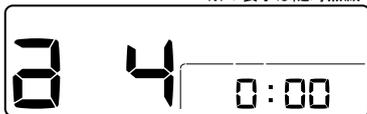
設定の確定とメイン画面に戻ります。

④ a4 時計設定

4

- セレクトボタン（左ボタン）とアジャストボタン（右ボタン）を同時に“3秒長押し”し、設定画面に入ります。
- 設定画面に入ると“a1”が画面に表示されます。アジャストボタン（右ボタン）“短押し”により、切り替えを行い“a4”に合わせ、セレクトボタン（左ボタン）を“短押し”し、a4“時計設定”設定画面に入ります。

※4表示は随時点滅

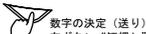
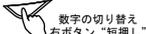
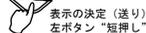
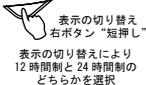


左右ボタン同時3秒長押しで設定画面に入ります。“a1”が表示されます。右ボタン“短押し”でa4“時計設定”設定画面へ切り替えます。左ボタン“短押し”で設定画面に入ります。

※設定確定に関する注意点
 数値入力・機能選択後は必ず、設定トップ画面に左ボタン（短押し）で戻り、数字（例:a.1の1）が点滅状態で左ボタン（長押し）でメイン画面に戻って下さい。この作業で“設定確定”となり、メーターに設定が記憶されます。
 ※上記作業を行わず、キーOFFを行うと新規設定は記憶されず、設定前の状態になります。

■a4“時計設定”設定画面

時計の設定を行います。12時間制/24時間制の2種類から表示方法を選択し、時刻の入力を行います。



左ボタン“短押し”で設定画面に入ると、“12H”“24H”のいずれかが点滅します。ここで12時間制/24時間制のどちらかを選択します。点滅している表示の変更は、右ボタン“短押し”で行います。左ボタン“短押し”で決定すると設定が完了し、次の“時刻入力”画面に切り替わります。時刻の入力の数字部分が点滅します。ここで時刻を入力します。点滅している位の数字の変更は、右ボタン“短押し”で行います。数字の決定は、左ボタン“短押し”になります。決定すると次の時刻の数字へ切り替わり、点滅します。最後の時刻を決定（左ボタン“短押し”）すると入力完了となります。※入力はまだ確定していません。ご注意ください。左ボタン“短押し”で決定すると設定が完了し、最初の時計設定 設定画面(a.4)に戻ります。ここで左ボタン“長押し”を行う事で、設定が確定されてメイン画面へ戻ります。

時計設定画面“a.4”に戻ります。a.4の4が点滅した状態で、左ボタン“長押し”を行い設定を確定します。同時にメイン画面に戻ります。



設定の確定とメイン画面に戻ります。

⑤ a5 バックライト輝度設定

5

- セレクトボタン（左ボタン）とアジャストボタン（右ボタン）を同時に“3秒長押し”し、設定画面に入ります。
- 設定画面に入ると“a1”が画面に表示されます。アジャストボタン（右ボタン）“短押し”により、切り替えを行い“a5”に合わせ、セレクトボタン（左ボタン）を“短押し”し、a5“バックライト輝度設定”設定画面に入ります。

※5表示は随時点滅

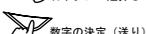
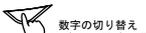


左右ボタン同時3秒長押しで設定画面に入ります。“a1”が表示されます。右ボタン“短押し”でa5“バックライト輝度設定”設定画面へ切り替えます。左ボタン“短押し”で設定画面に入ります。

※上記“設定確定に関する注意点”をご確認下さい。

■a5“バックライト輝度設定”設定画面

バックライトの輝度設定を行います。1～5の5段階の輝度から選択することが出来ます。



バックライト輝度設定画面“a.5”に戻ります。a.5の5が点滅した状態で、左ボタン“長押し”を行い設定を確定します。同時にメイン画面に戻ります。

左ボタン“短押し”で設定画面に入ると、数字が点滅します。ここでバックライトの輝度を選択します。点滅している表示の変更は、右ボタン“短押し”で行います。数字を決定（左ボタン“短押し”）すると設定完了となります。※入力はまだ確定していません。ご注意ください。左ボタン“短押し”で決定すると設定が完了し、最初のバックライト輝度設定 設定画面(a.5)に戻ります。ここで左ボタン“長押し”を行う事で、設定が確定されてメイン画面へ戻ります。設定範囲は1レベルあたりの輝度が20%となります。60%に設定する場合はレベル3となります。



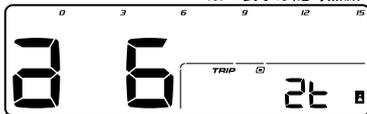
設定の確定とメイン画面に戻ります。

⑥ a6 エンジンオイルトリップメーター設定

6

- セレクトボタン（左ボタン）とアジャストボタン（右ボタン）を同時に“3秒長押し”し、設定画面に入ります。
- 設定画面に入ると“a1”が画面に表示されます。アジャストボタン（右ボタン）“短押し”により、切り替えを行い“a6”に合わせ、セレクトボタン（左ボタン）を“短押し”し、a6“エンジンオイルトリップメーター設定”設定画面に入ります。

※6表示は随時点滅

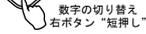
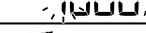
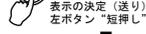
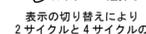
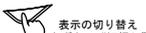
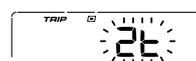


左右ボタン同時3秒長押しで設定画面に入ります。“a1”が表示されます。右ボタン“短押し”でa6“エンジンオイルトリップメーター設定”設定画面へ切り替えます。左ボタン“短押し”で設定画面に入ります。

※上記“設定確定に関する注意点”をご確認下さい。

■a6“エンジンオイルトリップメーター設定”設定画面

エンジンオイル交換または給油の警告を促す設定を行います。



左ボタン“短押し”で設定画面に入ると、“2t”又は“4t”表示が点滅します。ここでエンジンオイルの種類を選択します。点滅している表示の変更は、右ボタン“短押し”で行います。数字を決定（左ボタン“短押し”）すると警告指定距離の入力画面に切り替わります。

4st: 4ストロークオイル
 2st: 2ストロークオイル

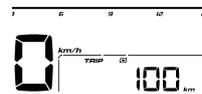
警告指定距離の入力画面入ると、1000の位の数字が点滅します。ここで警告指定距離(km)を入力します。点滅している位の数字の変更は、右ボタン“短押し”で行います。数字の決定は、左ボタン“短押し”になります。決定すると次の位の数字へ切り替わり、点滅します。最後の100の位を決定（左ボタン“短押し”）すると入力完了となります。※数値入力は1000の位と100の位になります。※入力はまだ確定していません。ご注意ください。左ボタン“短押し”で決定すると設定が完了し、最初のエンジンオイルトリップメーター設定 設定画面(a.6)に戻ります。ここで左ボタン“長押し”を行う事で、設定が確定されてメイン画面へ戻ります。警告指定距離に達するとエンジンオイルインジケータにて警告されます。

エンジンオイルトリップメーター設定画面“a.6”に戻ります。a.6の6が点滅した状態で、左ボタン“長押し”を行い設定を確定します。同時にメイン画面に戻ります。



設定の確定とメイン画面に戻ります。

■エンジンオイルトリップメーターの数値をクリアにする方法
 メイン画面で右ボタン“短押し”によりエンジンオイルトリップメーター画面にし、左右ボタンを“長押し”する事で、数値がクリアになります。



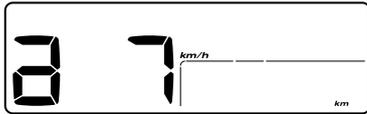
数値がクリアになります。

⑦ a7 スピードメーター設定

7

- セレクトボタン（左ボタン）とアジャストボタン（右ボタン）を同時に“3秒長押し”し、設定画面に入ります。
- 設定画面に入ると“a1”が画面に表示されます。アジャストボタン（右ボタン）“短押し”により、切り替えを行い“a7”に合わせ、セレクトボタン（左ボタン）を“短押し”し、a7“スピードメーター設定”設定画面に入ります。

※7表示は随時点滅



表示の決定（送り）
左ボタン“短押し”

左ボタン“短押し”で設定画面に入ると、“km”が点滅します。ここでは、“km”の表示であることを確認します。左ボタン“短押し”で入力完了となります。本製品では“km”のみ表示。本製品では“km”表示のみとなります。表示変更は出来ません。

左右ボタン同時3秒長押しで設定画面に入ります。“a1”が表示されます。右ボタン“短押し”でa7“スピードメーター設定”設定画面へ切り替えます。左ボタン“短押し”で確認画面に入ります。

スピードメーター設定画面“a.7”に戻ります。a.7の7が点滅した状態で、左ボタン“長押し”を行いメイン画面に戻ります。



メイン画面に戻ります。

⑧ a8 ユーザーオド設定

8

- セレクトボタン（左ボタン）とアジャストボタン（右ボタン）を同時に“3秒長押し”し、設定画面に入ります。
- 設定画面に入ると“a1”が画面に表示されます。アジャストボタン（右ボタン）“短押し”により、切り替えを行い“a8”に合わせ、セレクトボタン（左ボタン）を“短押し”し、a8“ユーザーオド設定”設定画面に入ります。

※8表示は随時点滅



表示の切り替え
右ボタン“短押し”

左ボタン“短押し”で設定画面に入ると、10000の位の数字が点滅します。ここでオドメーターの距離(km)を入力します。点滅している位の数字の変更は、右ボタン“短押し”で行います。数字の決定は、左ボタン“短押し”になります。決定すると次の位の数字へ切り替わり、点滅します。最後の位を決定（左ボタン“短押し”）すると入力完了となります。※入力はまだ確定していません。ご注意ください。左ボタン“短押し”で決定すると設定が完了し、最初のユーザーオド設定画面(a.8)に戻ります。ここで左ボタン“長押し”を行う事で、設定が確定されてメイン画面へ戻ります。

左右ボタン同時3秒長押しで設定画面に入ります。“a1”が表示されます。右ボタン“短押し”でa8“ユーザーオド設定”設定画面へ切り替えます。左ボタン“短押し”で設定画面に入ります。

表示の決定（送り）
左ボタン“短押し”

表示の決定（送り）
左ボタン“短押し”



設定の確定とメイン画面に戻ります。

ガソリン計設定画面“a.8”に戻ります。a.8の8が点滅した状態で、左ボタン“長押し”を行い設定を確定します。同時にメイン画面に戻ります。

※設定確定に関する注意点
数値入力・機能選択後は必ず、設定トップ画面に左ボタン（短押し）で戻り、数字（例：a.1の1）が点滅状態で左ボタン（長押し）でメイン画面に戻って下さい。この作業で“設定確定”となり、メーターに設定が記憶されます。※上記作業を行わず、キーOFFを行うと新規設定は記憶されず、設定前の状態になります。

⑨ a9 トータル走行距離

9

- セレクトボタン（左ボタン）とアジャストボタン（右ボタン）を同時に“3秒長押し”し、設定画面に入ります。
- 設定画面に入ると“a1”が画面に表示されます。アジャストボタン（右ボタン）“短押し”により、切り替えを行い“a8”に合わせ、セレクトボタン（左ボタン）を“短押し”し、a9“トータル走行距離”設定画面に入ります。

※9表示は随時点滅



表示の決定（送り）
左ボタン“短押し”

⚠️ ご注意ください。
トータル走行距離（オドメーター）の表示は消したり、調整する事は出来ません。
表示範囲：0～99999.9km

左右ボタン同時3秒長押しで設定画面に入ります。“a1”が表示されます。右ボタン“短押し”でa9“トータル走行距離”設定画面へ切り替えます。左ボタン“短押し”で設定画面に入ります。

トータル走行距離設定画面“a.9”に戻ります。a.9の9が点滅した状態で、左ボタン“長押し”を行いメイン画面に戻ります。



メイン画面に戻ります。

⑩ トリップメーターA / Bの数値をクリアにする方法

10

- トリップメーターAの数値をクリアにする



数値がクリアになります。

- メイン画面で右ボタン“短押し”によりトリップメーターA画面にし、右ボタンを“長押し”する事で、数値がクリアになります。

- トリップメーターBの数値をクリアにする



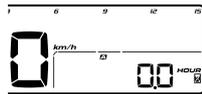
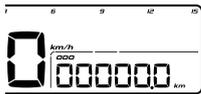
数値がクリアになります。

- メイン画面で右ボタン“短押し”によりトリップメーターB画面にし、右ボタンを“長押し”する事で、数値がクリアになります。

⑪ エンジンアワーメーター A / B の数値をクリアにする方法

11

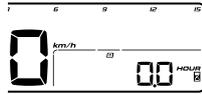
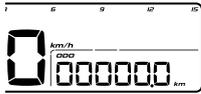
■エンジンアワーメーター A の数値をクリアにする



数値がクリアになります。

■メイン画面で右ボタン“短押し”によりエンジンアワーメーター A 画面にし右ボタンを“長押し”する事で、数値がクリアになります。

■エンジンアワーメーター B の数値をクリアにする



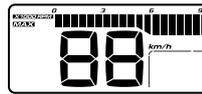
数値がクリアになります。

■メイン画面で右ボタン“短押し”によりエンジンアワーメーター B 画面にし右ボタンを“長押し”する事で、数値がクリアになります。

⑫ 最高速度記録表示 / 平均速度記録表示の数値をクリアにする方法

12

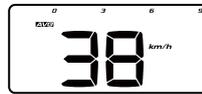
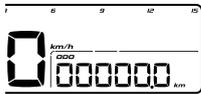
■最高速度記録の数値をクリアにする



数値がクリアになります。

■メイン画面で右ボタン“短押し”により最高速度記録画面にし右ボタンを“長押し”する事で、数値がクリアになります。

■平均速度記録の数値をクリアにする



数値がクリアになります。

■メイン画面で右ボタン“短押し”により平均速度記録表示画面にし右ボタンを“長押し”する事で、数値がクリアになります。

トラブルシューティング

- ◎電源がオンにも関わらずメーターが作動しない。
→配線を再確認して下さい。 →ヒューズの状態やバッテリー電圧が十分にあるかを確認して下さい。
- ◎メーターの情報が実際と異なる。 →バッテリー電圧を確認してください。バッテリー単体で電圧が 8V 以上あるか確認して下さい。
- ◎速度表示が出ない。または実際と異なる。 →速度センサーの接続を確認して下さい。 →タイヤサイズの設定を確認して下さい。
- ◎オドメーター、トリップメーターが積算されない。または実際と異なる。 →常時電源線が正しく接続されているか確認して下さい。
- ◎タコメーターが表示されない。または実際と異なる。
→RPM コードの接続を確認して下さい。
→スパークプラグが抵抗タイプでない場合は抵抗タイプに交換して下さい。
→本取扱説明書を参考にタコメーター入力数、タコメーター読み込みプログラムを確認して下さい。
- ◎ガソリン計が表示されない。または実際と異なる。
→燃料タンクを確認し、メーターまでの配線が正しくされているか確認する。 →タイヤサイズの設定を確認して下さい。